

藤田佳三展 海のシルクロード

五月二十六日(土)―六月三日(日)



料金後納  
ゆうメール

## 藤田佳三 展 海のシルクロード

二〇一八年五月二十六日(土)―六月三日(日) 会期中無休

営業時間 十一時〜十八時

作家在廊日 五月二十六日(土)・二十七日(日)

ギャラリーうつつわノート

埼玉県川越市小仙波町1の7の6

電話 049・298・8715

藤田佳三さんは1963年京都市生まれ。現在、京都府亀岡市で制作されています。風雅な染付や赤絵の食器で定評のある方です。通常、染付や赤絵は磁土をベースとした硬質なものが多いですが、藤田さんの場合、陶土を用いて白化粧を施した上に絵を描くことで、柔らかな印象の器に仕立てるのが特徴です。絵付けにおいては、安南手と呼ばれる滲んだような染付、宋赤絵のように余白のある絵柄など、柔らかで洒落なタッチが、日常的な食器として親近感を呼び起こすのです。

日本の染付や赤絵の原点を辿れば、中国の明代に行きつくのですが、当時は中東、東南アジア、欧州、そして日本の東西に跨る陶磁器の大きな文化交流が occurred。陶磁器の場合、その性質(重量、破損)から陸の輸送よりも、当時飛躍的に発達した海上交通による交易がその文化を発展させたのです。陸のシルクロードに対して、海のシルクロード。藤田さんは最近、その当時の異国情緒のある絵柄を好んで描いています。精緻を極める中国的な絵よりも、技術と文化がその土地に融け合っって曖昧になっていく南洋や西方の絵筆のさま。そんな緩みある絵柄に、かえって人間的な情緒性を感じ、遠い国の浪漫を思い浮かべるのです。

今回、定番の食器に加え、東南アジアから中東までのイメージを捉えた器を出品します。藤田さんの浪漫ある雅陶の世界をたっぷりご堪能頂ければ幸いです。

店主

### 藤田佳三プロフィール

1963年 京都市生まれ  
1982年 京都市銅駝美術工芸高校修了  
1986年 京都芸術短期大学陶芸専攻科修了  
1987年 小川文齋氏に師事  
1988年 走泥社・林秀行氏に薫陶を受ける  
1990年 兵庫県丹波立杭にて修行  
1993年 京都府亀岡市にて独立開業  
2018年 現在、同地にて制作



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分

本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分

バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり] ~ [喜多院前]

駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス] ~ [喜多院]

車：ギャラリー専用の新駐車場は北側(6~8番)



安南手象形扁壺(幅 25.5 奥行 12 高さ 15cm)